

横浜ゴム、米国トラック・バス用タイヤ工場の起工式を開催

横浜ゴムは、9月23日、米国ミシシッピ州ウエストポイントで、トラック・バス用タイヤ工場の起工式を開催した。新工場は、2015年10月からの操業を予定している。起工式には、フィル・ブライアント知事ならびに、州政府関係者、野地彦旬社長はじめ、横浜ゴム関係者など、350名以上が出席した。

山本忠治ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・ミシシッピ (YTMM) 社長は「本日は横浜ゴム、ミシシッピ州、ウエストポイントにとって大変素晴らしい日である。新タイヤ工場建設に向けて前進できたことは、ブライアント知事、知事スタッフ、また、すべてのミシシッピの人々の多大なご努力、ご支援があったからこそと深く感謝申し上げる。われわれがミシシッピでの工場建設を選択したのは正しい判断でした」と述べた。

横浜ゴムは、初期設備投資額として3億米ドル、また、第1期では約500名の雇用を計画しているが、将来的にそれぞれ4倍まで拡大する可能性があるとしている。500エーカーを越える土地に、生産、倉庫、事務所などを備えた工場を建設し、年間100万本以上のタイヤを生産する計画でいる。

ブライアント州知事は「本日は、横浜ゴムが米国において、まったくの白紙から初の工場建設をスタートさせる記念すべき日である。わずか5カ月前、横浜ゴムはウエストポイントでの工場建設計画を発表し、わたくしは横浜ゴムの皆さん、州および、地域の関係者が迅速にプロジェクトを軌道に乗せた努力に対し感謝した。わたくしは、近い将来再びこの地を訪れ、新工場の開所式を祝うとともに、ミシシッピがビジネスに最適な場所であることを世界に証明したいと思っている」と述べた。

